

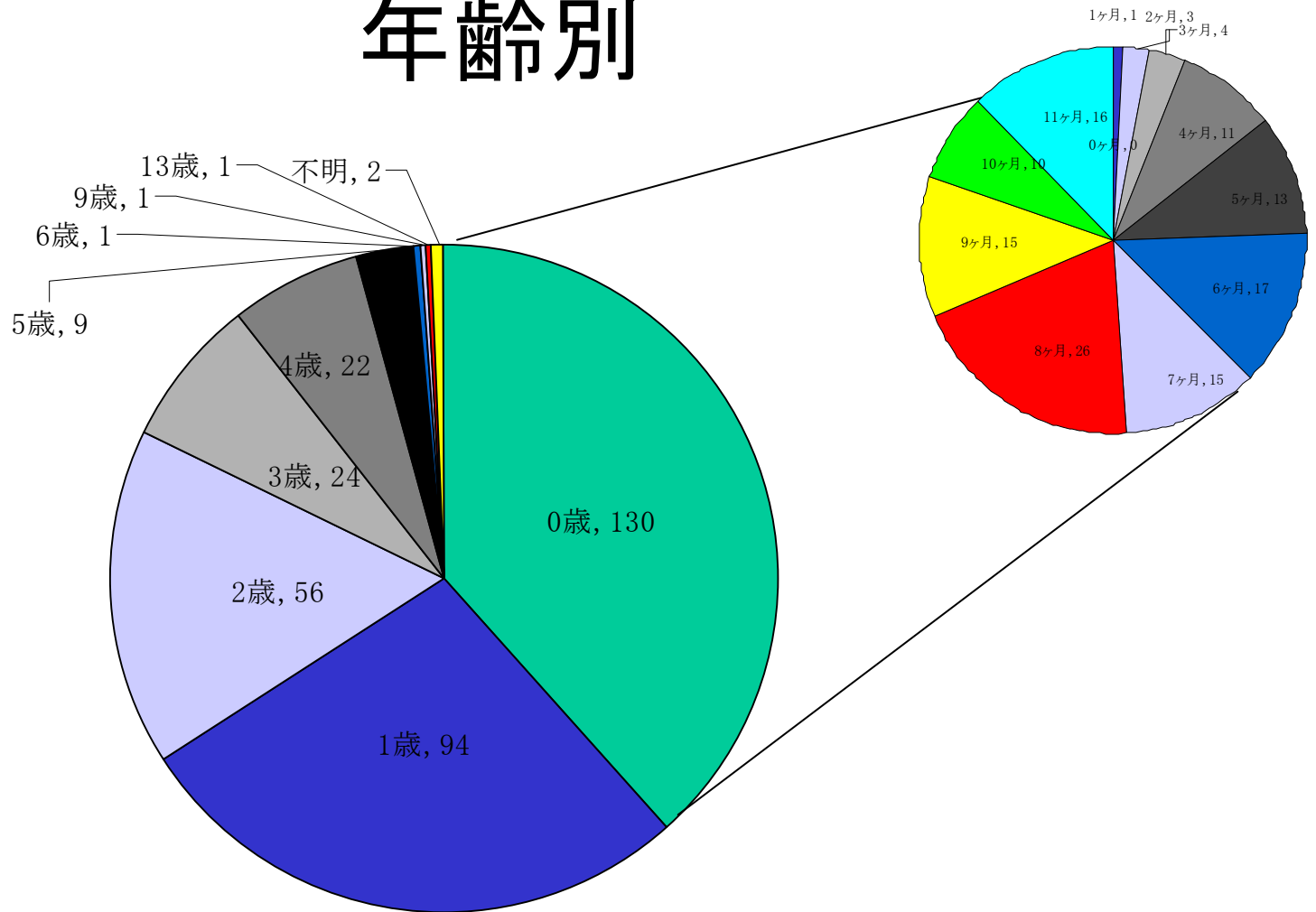
「Hib感染症発生DB(データベース)」

- 感染症発生動向調査(以下、発生動向調査)では、Hib感染症そのものの発生動向は把握されておらず、細菌性髄膜炎として、全国約500カ所の基幹定点から報告されているのみである。届出票に起因菌の記載欄はあるが、届出基準には含まれていない。2008年12月19日から、国内でもHibワクチンが接種可能となり、Hibワクチンの定期予防接種化に向けた検討をするためにもサーベイランスは重要である。そこで、国内発生状況について、発生動向調査では得られない詳細を把握するためにウェブ登録「Hib(b型インフルエンザ菌)感染症発生データベース」<http://idsc.nih.go.jp/disease/hib/hib-db.html>を実施している。2009年4月に小児科入院施設を有する全病院に依頼状を送付し、2009年5月から稼働させた。「Hib(b型インフルエンザ菌)感染症発生データベース」によるHib感染症の動向 IASR(Vol. 31 p. 97-98: 2010年4月号)
- Hib感染症発生DB(データベース)は、医師の自発的登録によるものである。関係者で情報共有が即座にできるものである。
- <http://idsc.nih.go.jp/disease/hib/hib-db.html> の所在は、国立感染症研究所感染症情報センターである。データベースの構築、運用は国立感染症研究所感染症情報センターである。
- 本データの出典:『平成22年度厚生労働科学研究費補助金(新型インフルエンザ等新興再興感染症研究事業)「ワクチン戦略による麻疹および先天性風疹症候群の排除およびワクチンで予防可能疾患の疫学並びにワクチンの有用性に関する研究(研究代表者岡部信彦)」平成22年分担研究報告書「百日咳データベース、およびHibデータベースの運用」分担研究者:国立感染症研究所感染症情報センター大日康史、菅原民枝、多屋馨子、岡部信彦』

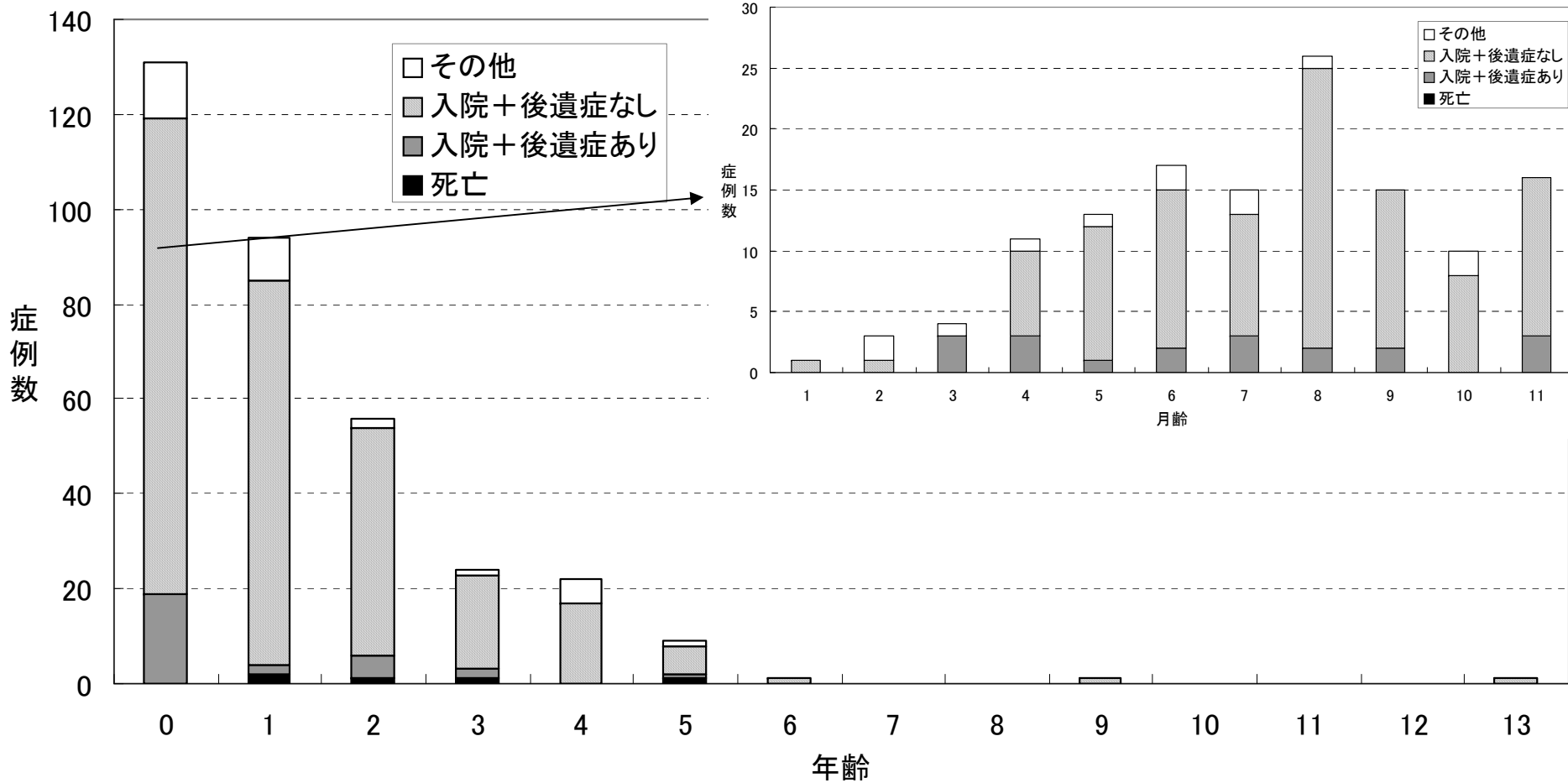
サマリー

- 報告開始:2009年4月～
- 報告期間:2008年1月～2011年10月26日
- 報告症例数:340例(否定例なし)
- 性別:男性191例(56.2%)、女性149例(43.8%)
- 年齢:0歳～13歳(平均値1.29)
 - 0歳131例(38.5%)、1歳94例(27.6%)
- 転帰(複数回答)
 - 外来のみ治療3例
 - 通院中10例
 - 入院(退院) 237例
 - 入院中71例
 - 軽度後遺症(脳波、CT、MRIなどで異常所見) 33例
 - 聴覚障害7例
 - てんかん3例
 - 中程度後遺症(日常生活に支障ない程度の障害) 6例
 - 重度後遺症(発達・知能・運動障害など) 7例
 - 死亡例5例
- 予防接種歴:有5例(全例1回のみ)、無328例、接種歴不明7例
 - 予防接種歴有例の診断名:4例髄膜炎、1例急性喉頭蓋炎
 - 予防接種歴有例の年齢:4歳2例、9か月1例、6か月1例、4か月1例
 - 予防接種から発症までの日数:接種後2日1例、接種後47日1例、接種前28日1例、接種日不明2例

年齢別

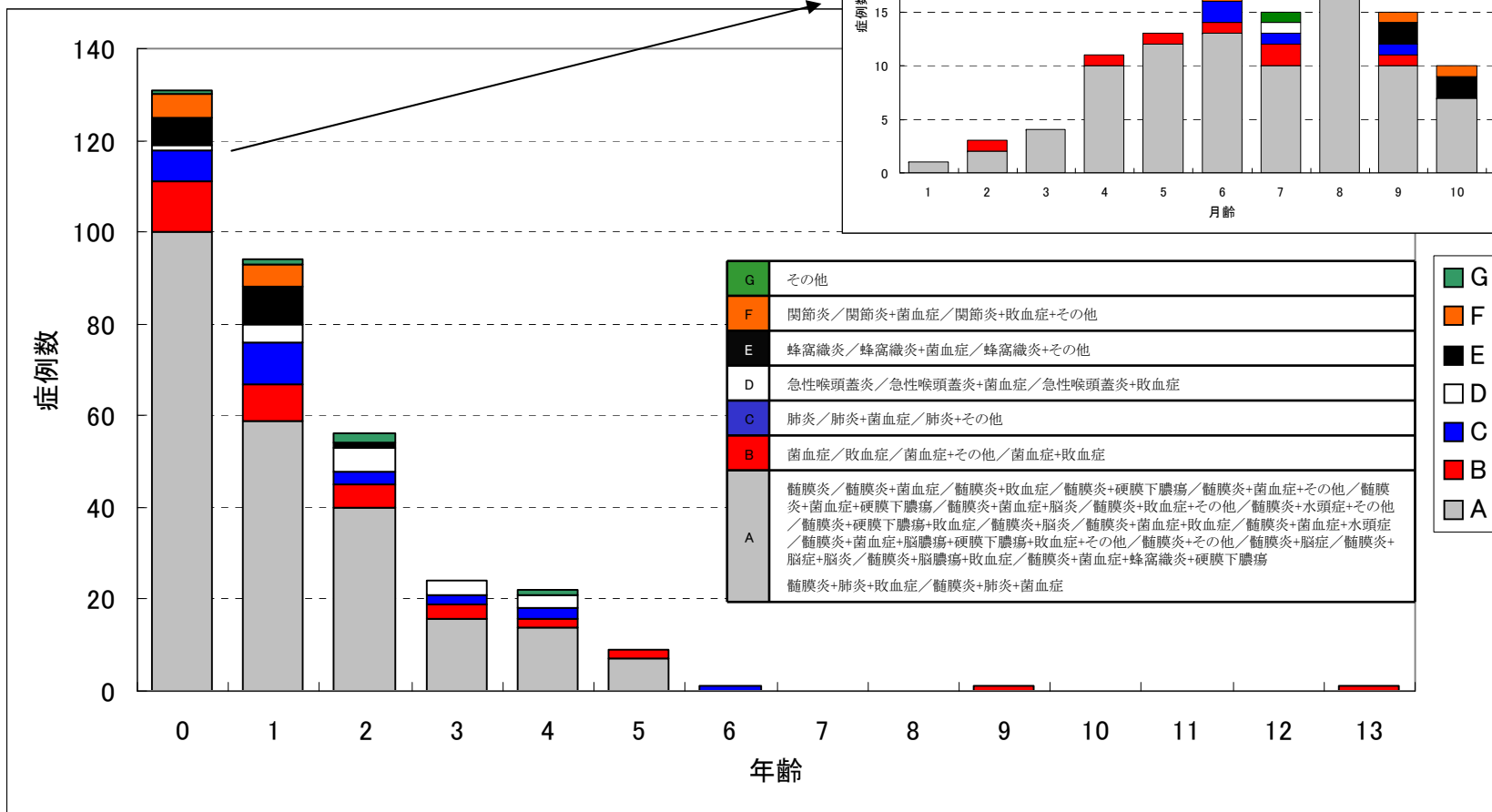
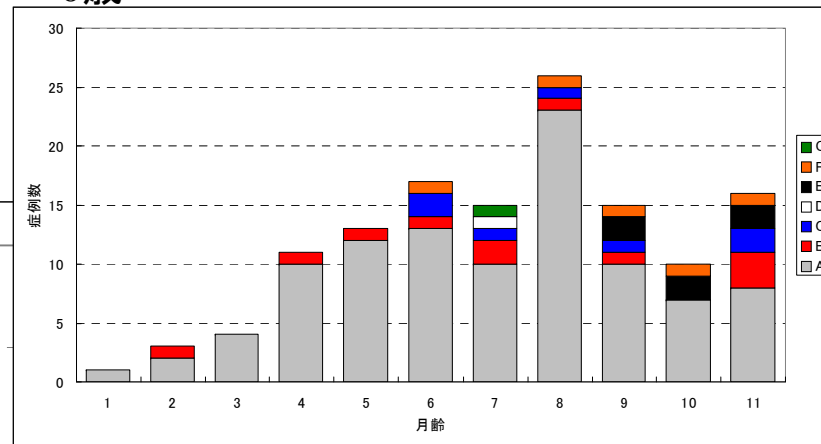


年齢別



年齢別診断別

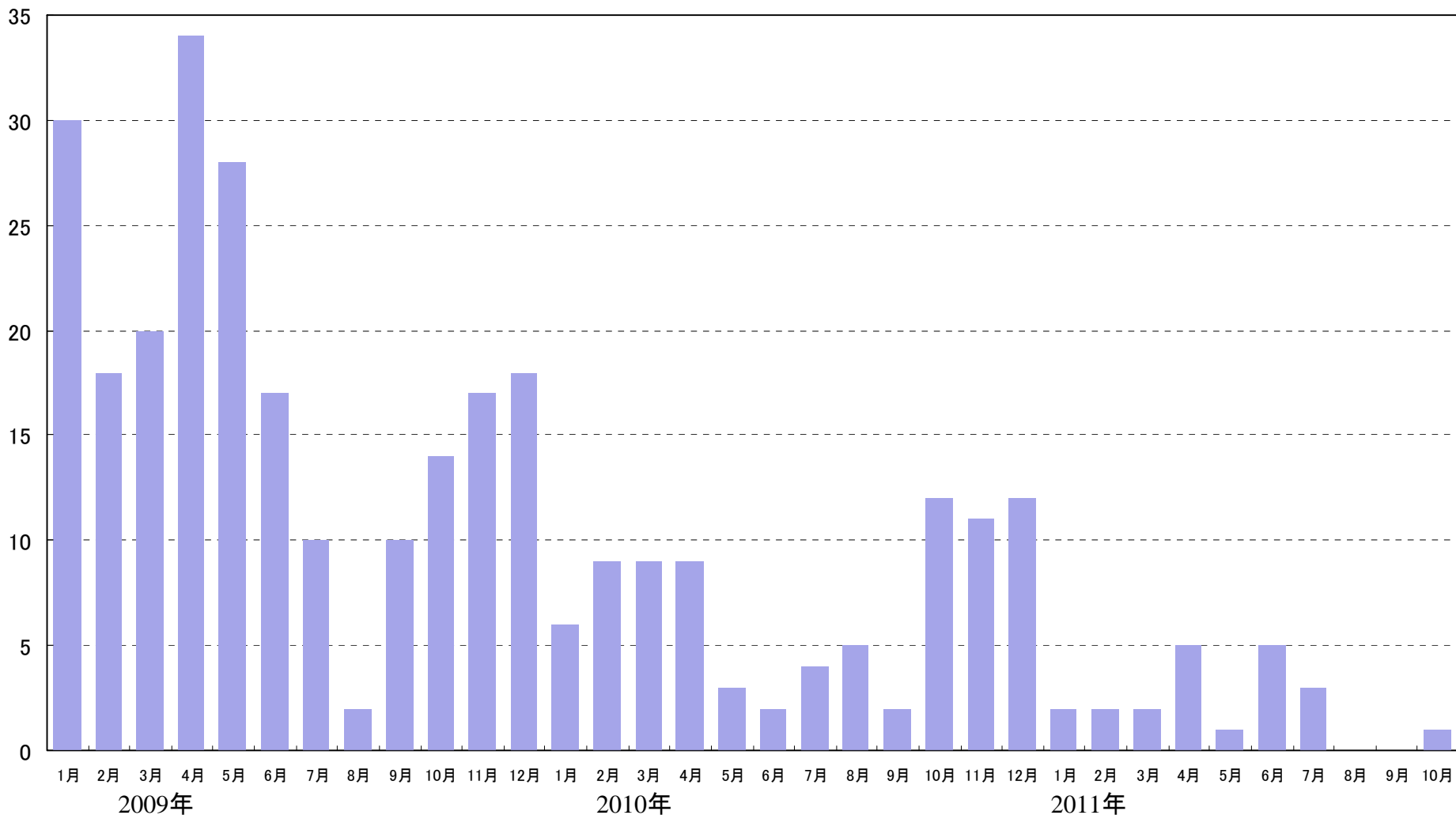
0歳



G	その他
F	関節炎／関節炎+菌血症／関節炎+敗血症+その他
E	蜂窩織炎／蜂窩織炎+菌血症／蜂窩織炎+その他
D	急性喉頭蓋炎／急性喉頭蓋炎+菌血症／急性喉頭蓋炎+敗血症
C	肺炎／肺炎+菌血症／肺炎+その他
B	菌血症／敗血症／菌血症+その他／菌血症+敗血症
A	髄膜炎／髄膜炎+菌血症／髄膜炎+敗血症／髄膜炎+硬膜下膿瘍／髄膜炎+菌血症+その他／髄膜炎+菌血症+硬膜下膿瘍／髄膜炎+菌血症+脳炎／髄膜炎+敗血症+その他／髄膜炎+水頭症+その他／髄膜炎+硬膜下膿瘍+敗血症／髄膜炎+脳炎／髄膜炎+菌血症+敗血症／髄膜炎+菌血症+水頭症／髄膜炎+菌血症+脳膿瘍+硬膜下膿瘍+敗血症+その他／髄膜炎+その他／髄膜炎+脳症／髄膜炎+脳炎+髄膜炎+脳膿瘍+敗血症／髄膜炎+菌血症+蜂窩織炎+硬膜下膿瘍
	髄膜炎+肺炎+敗血症／髄膜炎+肺炎+菌血症



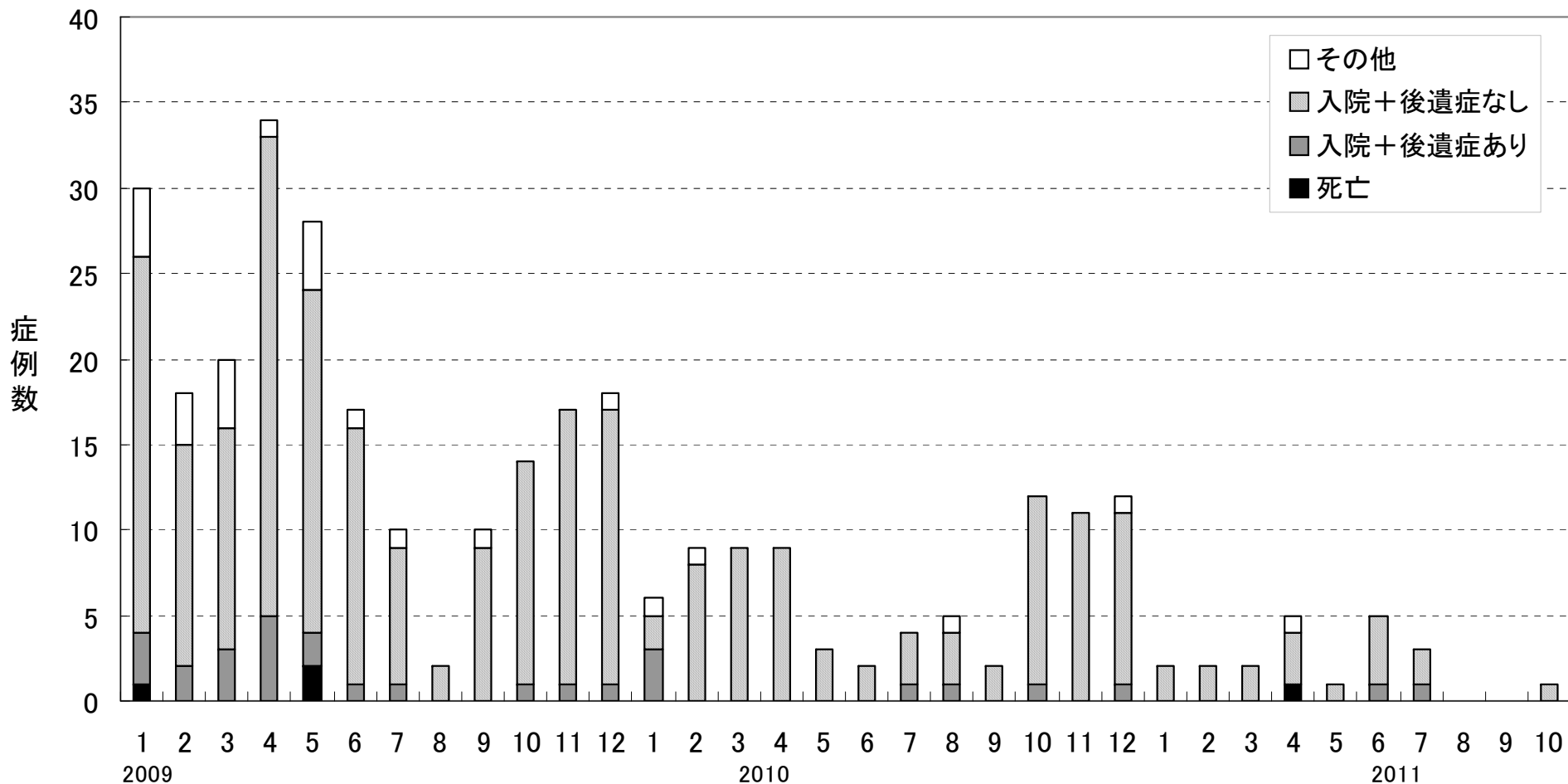
発症月別



注: データベースへの報告は、2009年5月より開始しているが2009年1月1日以降にHib感染症と診断した患者についても登録をお願いしている。なお、グラフには示していないが、2008年についても、17件の登録をいただいている。

注2: 案内は、内科小児科を標榜する医療機関約8万箇所に、2009年5月、2010年11月に送付した。

発症月別

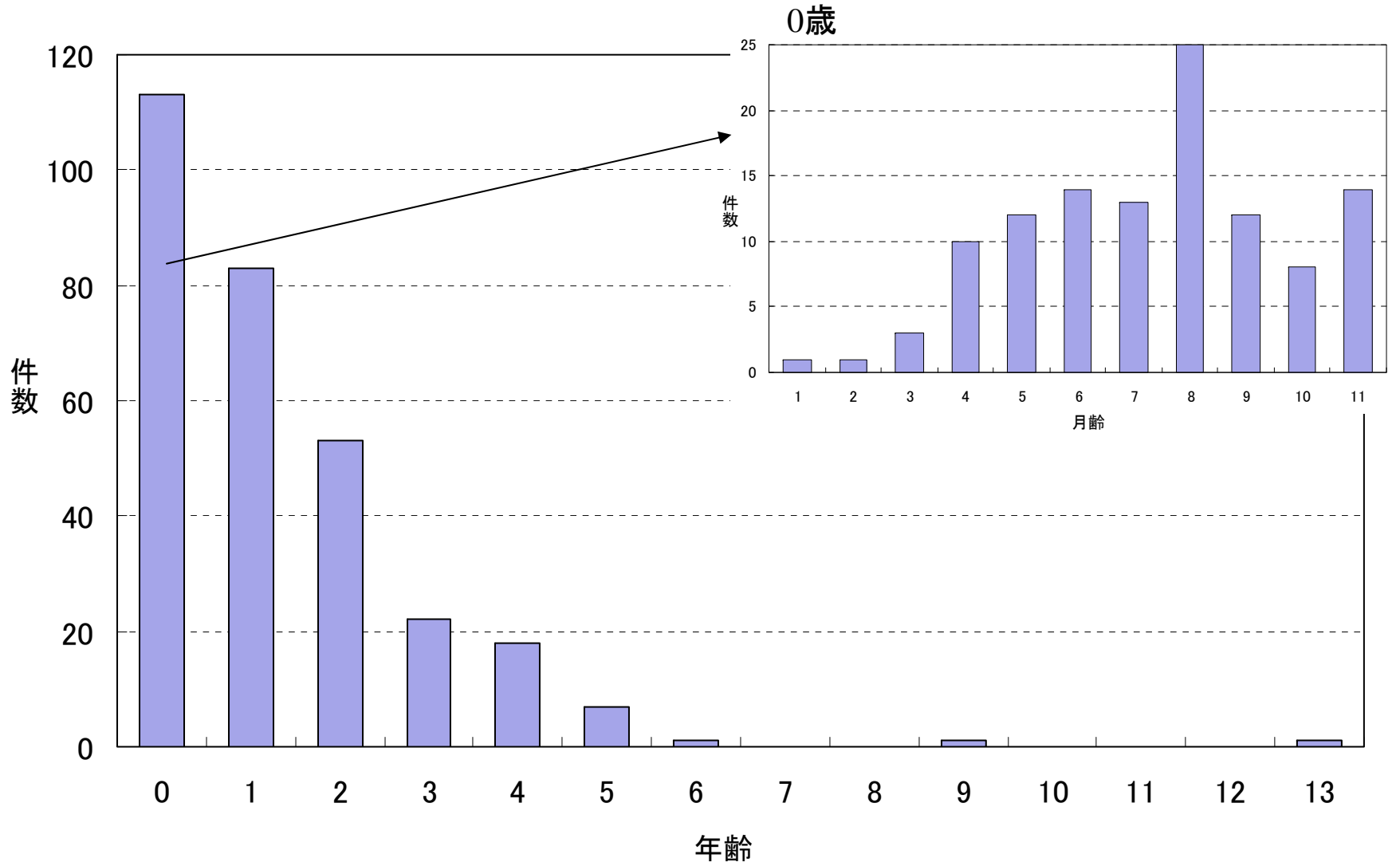


注: データベースへの報告は、2009年5月より開始しているが2009年1月1日以降にHib感染症と診断した患者についても登録をお願いしている。なお、グラフには示していないが、2008年についても、17件の登録をいただいている。

国立感染症研究所感染症情報センター

注2: 案内は、内科小児科を標榜する医療機関約8万箇所、に、2009年5月、2010年11月に送付した。

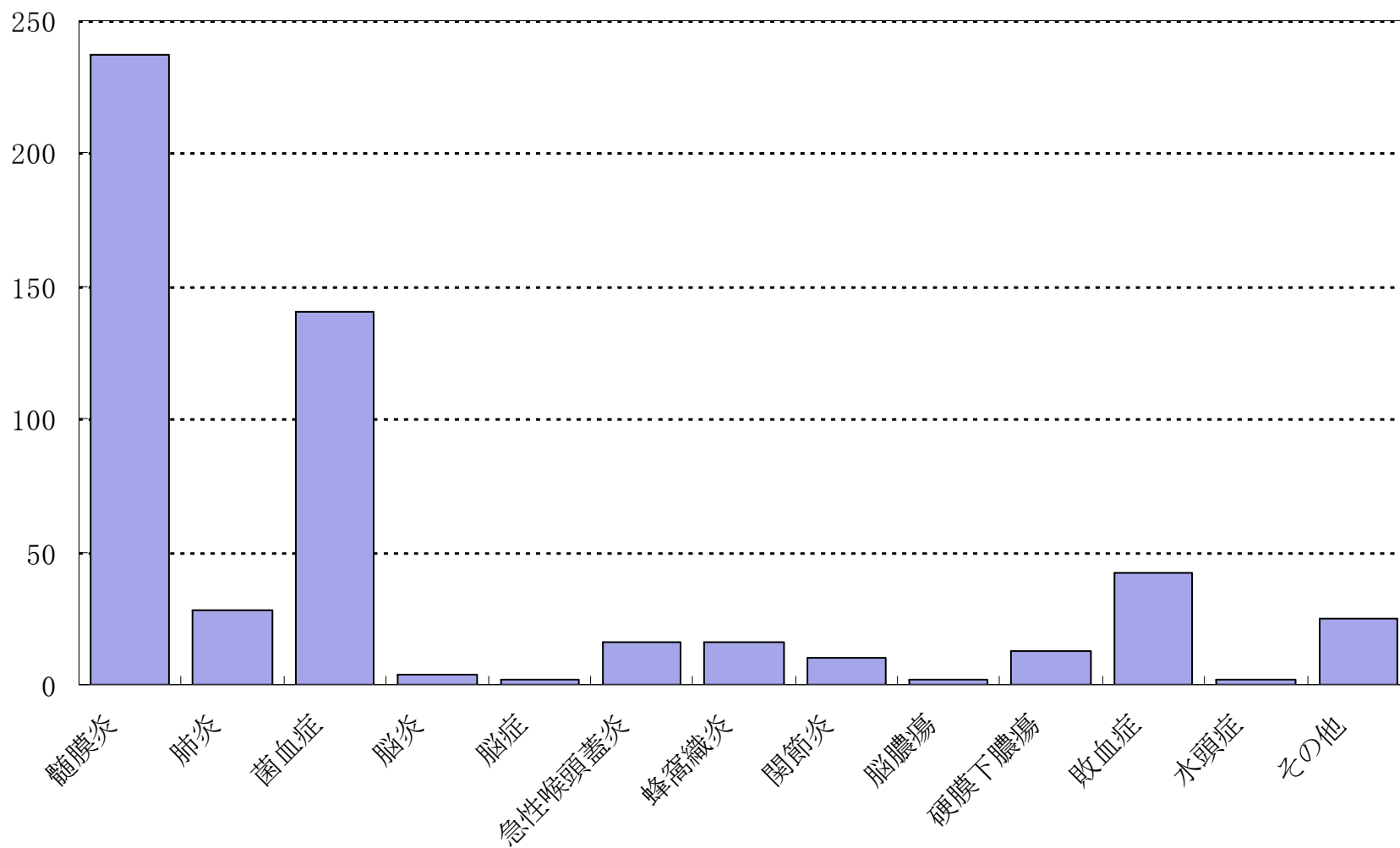
入院例 年齢別



診断名

診断名	人数	%
髄膜炎／髄膜炎+菌血症／髄膜炎+敗血症／髄膜炎+硬膜下膿瘍／髄膜炎+菌血症+その他／髄膜炎+菌血症+硬膜下膿瘍／髄膜炎+菌血症+脳炎／髄膜炎+敗血症+その他／髄膜炎+水頭症+その他／髄膜炎+硬膜下膿瘍+敗血症／髄膜炎+脳炎／髄膜炎+菌血症+敗血症／髄膜炎+菌血症+水頭症／髄膜炎+菌血症+脳膿瘍+硬膜下膿瘍+敗血症+その他／髄膜炎+その他／髄膜炎+脳症／髄膜炎+脳症+脳炎／髄膜炎+脳膿瘍+敗血症／髄膜炎+菌血症+蜂窩織炎+硬膜下膿瘍	233	68.5
菌血症／敗血症／菌血症+その他／菌血症+敗血症	33	9.7
肺炎／肺炎+菌血症／肺炎+その他	24	7.1
急性喉頭蓋炎／急性喉頭蓋炎+菌血症／急性喉頭蓋炎+敗血症	16	4.7
蜂窩織炎／蜂窩織炎+菌血症／蜂窩織炎+その他	15	4.4
関節炎／関節炎+菌血症／関節炎+敗血症+その他	10	2.9
髄膜炎+肺炎+敗血症／髄膜炎+肺炎+菌血症	4	1.2
その他	5	1.5

診断名(複数回答)



薬剤使用状況

薬剤使用状況	人数	%
セフトリアキソン+メロペネム	54	15.9
パニペネム／ベタミプロン+セフトリアキソン	39	11.5
セフォタキシム+メロペネム	36	10.6
セフトリアキソン	26	7.6
セフォタキシム	30	8.8
パニペネム／ベタミプロン+セフォタキシム	14	4.1
セフトリアキソン+その他	11	3.2
アンピシリン	11	3.2
パニペネム／ベタミプロン+セフトリアキソン+メロペネム	10	2.9
アンピシリン+セフォタキシム	9	2.6
その他	100	29.4

検査状況

	実施(人)					結果中 (人)	未実施 (人)
	検査結果(人)						
髄液細胞数	240	増加	220	正常	19	1	100
髄液蛋白濃度	199	増加	172	正常	26	1	141
髄液糖濃度	218	低下	158	正常	58	2	122
髄液細菌培養	232	陽性	200	陰性	30	2	108
髄液迅速(塗沫)	172	陽性	131	陰性	40	1	168
血液細菌培養	266	陽性	233	陰性	30	3	74
その他の部位からの細菌培養	122	陽性	93	陰性	27	2	218
血中白血球数	280	増加	203	低下	17	正常	60
CRP	273	陽性	268	陰性	5	0	67
その他の検査	30	陽性	27	陰性	3	0	310

薬剤使用状況と効果

	使用あり (人)	有効と回答 (人)		無効と回答 (人)	効果不明 (人)
抗菌剤					
セフトリアキソン	175	162	92.6%	1	12
メロペネム	136	123	90.4%	1	12
セフォタキシム	110	104	94.5%	1	5
パニペネム／ベタミプロン	79	64	81.0%	2	13
アンピシリン	36	31	86.1%	2	3
ペニシリン	3	3	100.0%	0	0
セフトジジム	6	6	100.0%	0	0
バンコマイシン	3	0	0.0%	1	2
その他	61	42	68.9%	5	14
ステロイド剤	176	125	71.0%	0	51

髄膜炎、脳炎、脳膿瘍、硬膜下膿瘍、水頭症 が診断名に含まれていた者の薬剤使用状況

	人数	%
セフトリアキソン+メロペネム	52	21.9
パニペネム／ベタミプロン+セフトリアキソン	37	15.6
セフォタキシム+メロペネム	35	14.8
パニペネム／ベタミプロン+セフォタキシム	13	5.5
セフトリアキソン	12	5.1
パニペネム／ベタミプロン+セフトリアキソン+メロペネム	10	4.2
セフトリアキソン+メロペネム+その他	8	3.4
セフトリアキソン+その他	7	3.0
セフォタキシム	7	3.0
その他	56	23.6